つるさき

発行所
鶴崎神社
〒701-0304
早島町早島2220
TEL 482-0097
FAX 697-6067
URL
http://turusaki2.web.fc2.com/

安原備中守の掛け軸に描かれた肖像画（島根県立博物館所蔵）

安原備中守没後四百年

安原伝兵衛は早島町塩津の土豪で、江戸時代初期の鉱山師として天正年中（1573～1592）に石見銀山に移住し、本谷釜屋間歩（坑道）の水抜き坑を掘削し、良質の「アラガネ」と呼ばれる銀鉛鉱の産出に成功した。

これにより石見銀山は飛躍的な発展を見せ、伝兵衛も鉱夫千余人を使う鉱山師となった。

最盛期には年三、六〇〇貫（一三、五トン）もの運上金を幕府へ納め、かつ伝兵衛も巨大な富を築いた。

慶長八年（1603）八月には、京都・伏見城で徳川家康に拝謁し、この時、銀の鉱脈を発見した功績によって、家康から胴服（国指定重要文化財）と扇子を拝受し、因繁の名と「備中」の官途も与えられ、安原備中守と名乗るようになった。

伝兵衛は本拠を石見に移したのちも郷里のへの信仰を維持し続け、その富をもって文禄二年（1593）当社の本殿改築、慶長十八年（1613）毘沙門堂、慶長十九年（1614）八幡神社の再建を願主となり寄進を行った。

元和九年（1623）八月五日に石見で死去し、同所と安原谷に埋葬されているが、早島の子孫も伝兵衛の功績を忍び天明四年（1784）塩津に供養塔を建立している。

今年は郷土を愛し、産土神である鶴崎神社の神恩に感謝しつつ、早島、豊洲の発展を祈念した伝兵衛没後丁度四百年に当たる。郷土の偉人に思いを馳せ、後世に偉業を伝える年にしたい。

巫女体験を開催

県内から十八名参加

新型コロナウイルス感染症拡大により延期されていた巫女体験が　当社の春季大祭に併せて五月二十一日（日）第四回巫女体験として実施された。

この事業は、岡山県神社庁教化委員会事業部が主催し、県内から十八名の女性が参加して、春季大祭の供膳祭を巫女の衣装を纏い伝供を奉仕し、一人一人玉串を奉って祈りを捧げた。

供膳祭で伝供を奉仕する巫女

祭典終了後、楽人による雅楽器の音色や、本殿内に御供えした三十台に及ぶ神饌の説明などが行われた。

午後からは、巫女の歴史や作法の講義の後、岡山県神社庁祭祀舞講師林千明氏等による祭祀舞の指導が行われ、全員で神前にて巫女舞の奉納を行い巫女体験を締め括った。

参加者からは、「初めて巫女の衣装を着けて、今まで知らなかった体験が出来て有意義な一日となりました。」等と感謝の声が聞こえた。

参集殿会議室で講義受ける参加者

祭祀舞の指導を受ける参加者

県教神協総会開催

八月二十二日、岡山県教育関係神職協議会総会が当社を会場に開催された。

午前十時に会員九名が正式参拝を行い、会長の素鵞神社宮司小坂博通氏が玉串を捧げて参拝の挨拶を行った。

引き続き、参集殿会議室で宮司が神社の由緒の説明を行い、総会行事が執り行われた。

午後からは、宮司が「神社の教化」と題して、鶴崎神社で取り組んでいる氏子の教化活動の講演が行われ、続いて早島町教育委員会生涯学習課文化財専門員黒瀬英樹氏により「早島町の歴史」と題して児島湾干拓の先駆けのまち、藺草と畳表のまち、金比羅往来のまち、旗本戸川家の陣屋のまちの四つの特徴のある早島町の講演が行われた。

その後、神社を後にした一行は、黒瀬氏の説明の下、早島町歴史民俗資料館の見学を行い散会した。

黒瀬氏の講演を聞く会員

神道Q&A

〈神棚の祀り方〉

【質問】

この度、御札を祀るために、新しい神祠を購入致しました。神棚を祀る一番良い方角を教えて下さい。

【答え】

神棚を祀るときには、一般的に南向きか東向きにお祀りするのが良いとされています。

しかし、西や北向きに祀る事が絶対にいけない理由はありません。

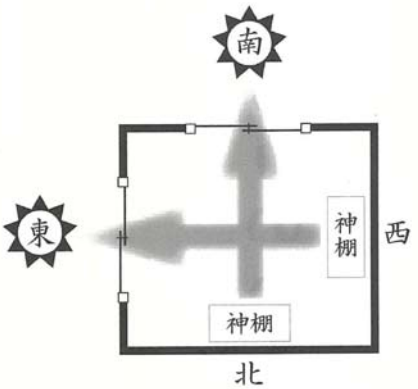
これは、我々日本人の方角に対する考え方を見てみる必要があります。

まず東と西は、日が昇り沈む方角であり、日々の繰り返しの中から、重要なる方角とされてきました。

つぎに、南と北の方角は、中国では「天子は南面する」という語に表れているように、北に在って南に向かうことが、君主の地位を象徴するものとして尊ばれてきましたが、我が国でも、この思想的影響を受けながら、古くから祭りなどを中心としたさまざまな儀礼の場において、特に重要な方角として考えられてきました。

現在、我々が家庭において神棚を設けるときには、こうした考え方に基づき、日が昇る東向きか、陽光が最も降り注ぐ南向きを原則に、家中で最も清浄な場所を選んでお祀りします。これは、神棚が家族や家庭の守りの中心として重要だからです。

神社も、これと同じように一般的に南向きか東向きに建てられていることが多いようです。しかし、地勢的問題や、その神社の特別な由緒から西向きや、北向きに建てられていることもあります。



参拝者で賑わった夏祭

七月三十日恒例の夏祭り（輪くぐり祭）が執り行われた。

今年も猛暑の中にもかかわらず、大勢の参拝者が、参道に設置された茅の輪を潜り、人形を奉納し、神札、茅の輪作成用の茅、団扇を受けた。また、夜店も多数出店し、子供達の歓声が境内に響いた。

好評につき、本年も受付は八月一日まで三日間とした。

町道の拡幅工事完了

五月末日を以て境内下の町道拡幅工事が完了しました。新しいガードレールも付いて、普通乗用車も通行出来るようになりました。

拡幅工事が完了した町道

七五三詣り

本年は下記の年齢の子供が七五三のお祝いにあたります。「七五三参り」のご祈祷は随時奉仕致しておりますが、予約をお願致します。

3歳	令和3年生	男・女
5歳	平成31年生 令和元年生	男
7歳	平成29年生	女

七五三詣りは「かぞえ年」で行うのが本義ですが、諸事情により「満年齢」でもお参りされています。

奉納品　上敷き・休憩ベンチ

鶴崎神社と八幡神社両社の祝詞殿と本殿とを繋ぐ渡り廊下に、永原兼太郎商店代表取締役社長永原耕吉氏から上敷きがそれぞれ奉納されました。春、秋の大祭時に使用させていただきます。

八幡神社に奉納された上敷き

鶴崎神社に奉納された上敷き

倉敷市西田の吉田啓司氏から、白木の休憩用ベンチ二脚が奉納されました。

吉田氏が奉納したベンチ

倉敷市中帯江の大森孝夫氏から令和元年に奉納した休憩ベンチを改修し奉納されました。

大森氏が奉納したベンチ

授与品③　姫守り

吉備津彦命の御妃百田弓矢姫（ももたゆみやひめ）は古来安産育児に霊験あらたかな神様で桃太郎のような丈夫な子供に育つようお守り下さるとの深い信仰がございます。

女性の美しさは容姿だけでなく、言葉や立ち振る舞い、品位、風格、知性など内面的な美しさも兼ね備えてこそ際立つもので、心を清らかにする御守として入魂しました。

御守袋は特殊な細密織りで、御神木の「アクラ」をあしらった当社オリジナルデザインとして授与致しております。

（初穂料一、〇〇〇円）

総代の異動（令和五年九月一日付）

前潟	
退任	新任
佐藤　博文	早島町前潟九一
早島町前潟六六	田中　都輝

祭事暦

十月十四（土）
［午前十時］鶴崎神社秋季大祭【供膳祭】
［午後七時］八幡神社秋季大祭（露店あり）

十月十五（日）
［午前九時］神幸祭

十一月十五日を中心に　七五三祈祷

十一月二十三日（木）
［午後二時］新穀感謝祭

一月二日（火）［午後二時］年始祭

毎月一日［午前九時］月次祭

※月次祭はどなたでも参列出来ますので、お誘い合わせご参拝下さい。

諸祈祷・出張祭の案内

当社では左記により随時ご奉仕致しております。

◆家内安全・交通安全・初宮詣・七五三詣・厄除・九星災難消除・安産・当病平癒・学業成就・その他

◆地鎮祭・上棟祭・家移清祓・埋井祭・改装清祓・解体清祓・神葬祭・霊祭等

ご希望の方は前もってご連絡下さい。